

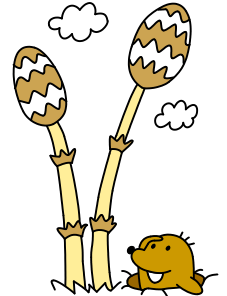


# 根岸だより

平成31年 3月20日  
第32-49号  
台東区立根岸小学校  
校長 小西 祐一  
TEL03-3876-2411~2

## あげる幸せ

校長 小西 祐一



昨年4月に進級・入学してから、いよいよ1年が経とうとしています。間もなく、1～5年生は次の学年へ、そして6年生は中学校へと進みます。進学・進級は、まさに未知の領域への挑戦です。そこには自分自身をより大きく、より豊かに成長させてくれるものが待っています。期待と決意をもって次のステージに向かうことができるように、子供たちを励ましていきたいと思ひます。保護者・地域の皆様をはじめ関係の皆様には、今年度も本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、学校では今、卒業式に向けた準備が着々と整えられ、19日には予行練習が行われました。予行練習の校長式辞として、私は6年生の子供たちに次のような話をしました。

\* \* \* \* \*

6年生の皆さん、いよいよ卒業の日が近づいてきました。卒業を目前に控えた皆さんに、今日は「3つの幸せ」の話をしたいと思います。

人間が味わう幸せには三つあるという話を聞いたことがあります。その1つは「もらう幸せ」です。言葉の通り、何か物をもたらったり、あるいは、何かをしてもらったりしたときに感じる幸せのことです。生まれて間もない赤ちゃんは、ご飯を食べさせてもらって、お風呂に入れてもらって、服を着せてもらって、「もらうしあわせ」で満たされています。

けれども、成長が進むにつれて、赤ちゃんは徐々に自分でやれたがるようになります。親や周囲の大人の人に何もかもしてもらっている方が楽であるにもかかわらず、大人の手を振り払い、幼い挑戦が始まります。それは、2つ目の幸せである「できる幸せ」を求める姿なのです。失敗の連続で思うようにならずに、時には大声で泣きながら、それでも「できる」ことを求めます。小学校に入学してからは、さらに「できる幸せ」を味わう毎日であったことと思ひます。できたことで家族や周囲の人から褒めてもらい、とても嬉しかったに違ひありません。そして、「もらう幸せ」や「できる幸せ」は決して当たり前ではなく、家族の愛情や周囲の人からの支えがあってこそそのものだということを知り、感謝の心が育まれていったのです。

そして、いよいよ3つ目のしあわせです。3つ目のしあわせは、「あげる幸せ」です。「あげる幸せ」という言葉を聞いて、私にはすぐに思い浮かぶ人物(あえて人物と呼びましょう)がいます。それは「アンパンマン」です。アンパンマンは、弱っている人、元気がない人、悲しんでいる人がいると、優しく寄り添い自分の頭であるアンパンを食べさせてあげます。自分の頭を食べさせてあげることで、相手は元気になりますが、アンパンマン自身は力を失い、たちまちバイキンマンにやられてしまいます。そのことを分かっている、でも、そうせずにはいられないのです。なぜなら、それが、アンパンマンの幸せだからです。

6年生の皆さんも、この1年間で「あげる幸せ」をたくさん味わってきたのではないのでしょうか。遊びの時間を削って学校行事の準備をしたり、放課後遊びを我慢してスマイル班の計画を立てたり。また、泣いている下級生に声をかけてあげたり、目立たない仕事でも欠かさず役割を果たしたりしてきたのが皆さんです。時には「面倒くさい」と思ひながらも、同時に喜びや誇りを感じていたのではないのでしょうか。「あげる幸せ」を感じられる心は、自分のことを横に置いて、相手のことやみんなのことを考えることができる尊い心です。そして、その心が育まれたとき、それは、「こころざし」を生きる歩みを始める準備ができたときだと私は考えます。

卒業を間近に控え、今一度、みなさんには「あげる幸せ」を味わったときのことを心に呼び起こしてほしいと思ひます。その心は、疑う余地のない真心であり、これからの皆さんの歩みをきつと、支え導いてくれることでしょう。

\* \* \* \* \*

6年生は下級生たちの憧れです。実践を通して「あげる幸せ」を知る6年生の姿は、下級生にとってとても眩しい存在です。そして、その姿は伝統的に受け継がれているものです。4月になると、新しい「憧れの6年生」が誕生します。今からとても楽しみです。そして、その次の年も、その次も、よき伝統は引き継がれていくことでしょう！